2013 年度点検・評価シート

Ⅰ　評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準４	教育内容・方法・成果
中項目　4-4	成果
点検・評価項目(1)	4-4-1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
評価の視点	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用
点検・評価項目(2)	4-4-2 学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われているか。
評価の視点	学位授与基準、学位授与手続きの適切性
	学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策

Ⅱ【点検・評価項目ごとの現状説明】

4-4-1	学習成果を測定する評価指標の開発・適用は行われていない。したがって、現状では、留年率、卒業生アンケートの集計結果の数値、就職決定率などから推測するしかない。本研究科ではこれまで留年、あるいは退学した学生は存在しない。なお、現在の就職決定率は、博士課程進学者を除くとほぼ 100%に近い。
4-4-2	本研究科では、2010 年の認証評価において「学位論文審査基準」ならびに「学位授与方針」が学生に明示されていないので大学院手引きに明示されることが望まれる。」という助言がついた。それに対応するため 2013 年度に「学位授与方針」を制定し、それに基づいて学位授与（卒業・修了認定）を適切に行っている。その「学位授与方針」は、「本課程は、所定の単位を修得し、提出した修士学位論文が専攻内規に則り審査のうえ合格と判定された者は、以下のような能力を備えていると判断し、修士（スポーツ科学または健康科学）の学位を授与します。①専攻分野（スポーツ関連分野、健康関連分野）の幅広い視野と高度な知識や技能を修得している。②異なる領域の学問内容の知識および技術を修得し、自身の専門領域の知識をより深化させることができ、領域を横断した総合的視野と専門的洞察力を備えている。③スポーツおよび健康・医療の関連分野における専門的指導者および職業人としての分野横断的および学際的な能力を身につけている。」となっている。学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策としては、本研究科では学位論文の審査および最終試験または学力の確認を行うことを目的として学位授与のための審査委員会を設置する。審査委員会は、学位請求論文に対して主査 1 名、副査 2 名で構成する。なお、評価の公平性を遵守するために指導教員が主査に選出されることはない。また、2 名の副査のうち 1 名は、学位請求論文を提出した領域以外から選出されることになっている。さらに、審査委員会は、修了予定者を対象に論文構想発表会および学位論文発表審査会を開催するが、これらはすべて一般公開で行われる。このように本研究科における学位授与（卒業・修了認定）は適切に行われている。

【効果が上がっている事項】

4-4-1	
4-4-2	

【改善すべき事項】

4-4-1	
4-4-2	

Ⅲ　本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大学院スポーツ・健康科学研究科履修要項 2014」、「大東文化大学スポーツ・健康科学研究科完成報告書」

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】目標の進捗状況は、「S：完全に達成」　「A：概ね達成」　「B：やや不十分」　「C：不十分」　で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの		評価				
				2014	2015	2016	2017	2018
中期目標(2014～2018)	本研究科内の自己点検評価委員会を中心に、学習成果を測定する評価指標を作成する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					
14 年度目標	本研究科委員会および本研究科内の自己点検評価委員会において、学習成果を測定する評価制度の開発に関する検討を開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検評価委員会報告書」に記載される。	→					